

戦評用紙

大会名	令和7年度 第76回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校体育大会山形県予選会		
-----	--	--	--

日時	20 25 年 6 月 1 日 12 : 45 ~	区分	高体連
----	---------------------------	----	-----

チームA				チームB
山形中央				鶴岡東
91	26	1Q	12	60
	18	2Q	22	
	35	3Q	10	
	12	4Q	16	
		延長		

【戦 評】

先発は、山形中央(3、6、18、25、34)鶴岡東(2、5、6、14、24)で試合開始。
開始5秒山形中央の#3がドライブで切り込み、初得点。両チームともマンツーマンでスタートするが、山形中央がオールコートからプレッシャーをかけボールを奪い、コンスタントに得点を重ねる。6分17秒、11-3のとなったところでたまたま、鶴岡東がタイムアウト。鶴岡東も果敢に攻め込み、ファウルをもらいフリースローで得点。26-12、山形中央リードで1Q終了。
2Q開始、鶴岡東#14がリングにアタック。ファウルをもらい、フリースローを2本沈め、勢いに乗る。8分9秒、山形中央はディフェンスを強めるもチームファウルが重なり、鶴岡東にフリースローを与える。鶴岡東が3-2のゾーンにディフェンスを変更するも、山形中央の#9、#12が冷静にミドルシュートを沈める。鶴岡東#0が3Pを沈め、チームに流れをもたらす。山形中央はゾーンを攻めきることができず、44-34で2Q終了。
3Q9分45秒、鶴岡東#0の3ポイントでスタートする。山形中央はペイントアタックから確実に2点を重ねる。山形中央#16のアシストで#25のコーナーからの3Pを沈め、53-39と差を広げる。6分53秒、鶴岡東が後半一回目のタイムアウト。山形中央の強度の高いディフェンスを鶴岡東は攻めきることができない。鶴岡東の2-3のゾーンに対して、山形中央#12が2本の3Pで一気にたたみかける。鶴岡東#0がめけじと3Pを沈めるも、点差は広がり、79-44で3Q終了。
山形中央はマンツーマン、鶴岡東は2-3のゾーンで4Qをスタートする。鶴岡東#5がゴールにアタックし、タフシュートを沈める。その後も、鶴岡東#0が3Pを沈めるなど意地を見せるも、山形中央はランジションや冷静なゾーンアタックで得点を重ねる。個々のスキルや強度の高いディフェンスなど、力の差を見せつけ、山形中央が4年連続の優勝を飾った。

戦評者

羽田 結子